



## a ~ h コマンド

---

- [clear, 2 ページ](#)
- [config advanced, 4 ページ](#)
- [config backup, 6 ページ](#)
- [config mgmt-interface, 8 ページ](#)
- [config ntp, 10 ページ](#)
- [config passwd, 12 ページ](#)
- [config reset, 14 ページ](#)
- [config restore, 16 ページ](#)
- [config time, 19 ページ](#)
- [config timezone, 21 ページ](#)
- [delete, 23 ページ](#)
- [exit, 25 ページ](#)
- [format, 26 ページ](#)
- [help, 28 ページ](#)

# clear

操作およびデバイスの多様な統計情報をクリアするには、さまざまな **clear** コマンドを使用します。

**clear opdata {interface| connections| framedrop| flowdrop| adisessions}**

## 構文の説明

### opdata

さまざまなタイプのデータプレーン関連の統計情報をクリアするには、次のキーワードを使用します。

- **interface** : 各ネットワーク インターフェイスカード (NIC) のカウンタをクリアします。
- **connections** : 各 TCP および UDP 接続の接続情報をクリアします。
- **framedrop** : ドロップされたパケットに関する統計情報をクリアします。
- **flowdrop** : ドロップされたトラフィック フロー (接続) に関する統計情報をクリアします。
- **adisessions** : ユーザの IP アドレス接続のマッピング (ADIセッション) ディレクトリをクリアします。

## コマンドモード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。

## コマンド履歴

### リリース

### 変更内容

ASA CX Software 9.0(2)

このコマンドが追加されました。

## 例

次の例は、**clear opdata adisessions** コマンドの出力です。結果は他の **clear** コマンドと似たものになります。

```
hostname>clear opdata adisessions
Cleared sessions
hostname>
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show opdata interface</b>	すべてのデータ プレーン インターフェイスの基本的な統計情報を表示します。
<b>show opdata connections</b>	現在の TCP および UDP 接続の詳細を表示します。
<b>show opdata framedrop</b>	ドロップされたフレーム (パケット) に関する情報を表示します。
<b>show opdata flowdrop</b>	ドロップされたトラフィック フロー (接続) に関する情報を表示します。
<b>show opdata adisessions</b>	すべての ADI セッション情報 (ユーザの IP アドレス接続のディレクトリ) を表示します。

# config advanced

変更の必要がない通常の状態では ASA CX オプションを設定するには、**config advanced** コマンドを使用します。

**config advanced {autorestart {on| off}| inspection {on| off}}**

## 構文の説明

<b>autorestart on off</b>	自動再起動をイネーブルまたはディセーブルにします。自動再起動はフェールオーバーするシステム プロセスを自動的に再起動します。
<b>inspection on off</b>	HTTP 検査をイネーブルまたはディセーブルにします。HTTP 検査は、アプリケーションのフィルタリングなど、高度なトラフィック処理に必要です。

## コマンド デフォルト

デフォルトでは、自動再起動と HTTP 検査はイネーブルになっています。

## コマンド モード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。

## コマンド履歴

リリース	変更内容
ASA CX Software 9.0(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

自動再起動がイネーブルの場合、システム プロセスが何らかの理由で失敗すると、デバイスは再起動を試みます。自動再起動を使用すると、デバイスに復元力を持たせることができます。ただし、プロセスが正常に再起動できず、問題を回避するためにリブートが要求されると、デバイスはプロセスを再起動し続けるエンドレスループに陥る場合があります。デバイスが再起動のループに陥った場合は、自動再起動をディセーブルにし、システムをリブートします。これで問題が解決しない場合、Cisco のテクニカル サポートまでお問い合わせください。

HTTP 検査は、すべての機能が揃ったトラフィック フィルタリングで必要になります。検査をディセーブルにすると、デバイスは従来のファイアウォールのように動作し、アプリケーションのフィルタリングなどの検査によって取得される属性をフィルタリングしません。検査設定を変更すると、すべてのプロセスが再起動されます。

## 例

次に、自動再起動をオフにする例を示します。

```
hostname> config advanced autorestart off  
hostname>
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show autorestart status</b>	自動再起動の現在のステータスを表示します。
<b>show services status</b>	システム プロセスの現在のステータスを表示します。

# config backup

設定データベースをバックアップするには、**config backup** コマンドを使用します。

## config backup URL

### 構文の説明

<i>URL</i>	バックアップを作成する場所の URL です。パスを含み、ファイル名を含まない次のタイプの URL を使用できます。  • ftp://
------------	---

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。
- PRSM のコンソールまたは SSH セッション。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
ASA CX Software 9.0(1) PRSM 9.0(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

設定データベースをバックアップするには、**backup** コマンドを使用します。バックアップには、イベントまたはレポートデータは含まれません。バックアップを復元するには、**config restore** コマンドを使用します。

バックアップをコピーする FTP サーバ上のフォルダの URL を指定します。FTP サーバが匿名ログインをサポートするものの、匿名ユーザにアップロード権限を与えない場合、適切な権限を持つユーザ名とパスワード（任意）を **ftp://ユーザ名[:パスワード]@サーバ名/パス** の形式で指定します。

バックアップファイルの名前には、各コンポーネントが次の順番で示されます。コンポーネントは下線で区切られ、最後にファイル拡張子として **.pkg** がつきます。

- システムのタイプ : prsm または cx

- ホスト名
- ソフトウェア バージョン番号
- バックアップが作成された 24 時間表記の日時 (month\_day\_year\_hour\_minutes\_seconds 形式)

たとえば、prsm\_prsm-vm\_1.0.0\_04\_02\_2012\_16\_25\_30.pkg は、デフォルトのホスト名を使用して、ソフトウェア バージョン 1.0.0 で、24 時間表記で 2012 年 4 月 2 日の 16 時 25 分 30 秒に作成した、PRSM マルチ デバイス モードのバックアップの名前です。

PRSM マルチ デバイス モードでは、VMware を使用して仮想コンピュータのスナップショットを作成し、データベースバックアップを復元するのではなく、これらのスナップショットを復元することもできます。様々な潜在的な問題から保護するために、両方の技術を使用できます。



#### 注意

バックアップ中に、パスワードをクリアするかどうか尋ねられます。バックアップを Cisco Technical Assistance Center などと共有する場合にのみ、パスワードをクリアしてください。パスワードをクリアしたバックアップを復元した場合、すべてのデバイスを PRSM マルチ デバイス モード インベントリから削除してから追加し、パスワードをリセットする必要があります。すべてのモードで、ローカルユーザ (admin ユーザ以外)、AD/LDAP ディレクトリ、AD エージェント、シグニチャアップデータ HTTP プロキシユーザ名のすべてのパスワードを定義する必要があります。admin ユーザとしてログインできるようになるのは、パスワードをクリアしたデータベースを復元した後です。

#### 例

次に、データベースのバックアップを作成する例を示します。バックアップメッセージが、作成されるバックアップ ファイルの名前を示すことに注意してください。

```
hostname> config backup ftp://10.69.43.239/backups
Starting the database backup process....
Please note that eventing/reporting data will not be backed up
If you are creating a backup to share with others for system Troubleshooting,
you can clear device passwords to maintain security.
A backup with cleared passwords is not suitable for system recovery.
Do you want to clear the passwords in the backup database(y/n)?[n]:n
Uploading file prsm_prsm-vm_1.0.0_04_02_2012_16_25_30.pkg to
ftp://10.69.43.239/backups
You need to authenticate with the server to upload/download file
Username: ftpusername
Password: (typing not displayed)
Uploading the file to /users/admin/backups on the remote server.
Backup of the database is completed.
hostname>
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>config reset</b>	データベースを出荷時デフォルト値にリセットします。
<b>config restore</b>	データベース バックアップを復元します。

# config mgmt-interface

管理インターフェイスのロギングを設定するには、**config mgmt-interface** コマンドを使用します。

## config mgmt-interface log-drops [enable| disable]

### 構文の説明

**log-drops [enable | disable]** ファイアウォールによって管理インターフェイスでドロップされたパケットのロギングをイネーブルにするか、ディセーブルにするかです。キーワードの **enable** または **disable** を指定しない場合、ロギングの現在の状態が表示され、それを変更するかどうか尋ねられます。

### コマンド デフォルト

デフォルトでは、log-drops はディセーブルです。

### コマンド モード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。
- PRSM のコンソールまたは SSH セッション。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
ASA CX Software 9.0(2)	このコマンドが追加されました。
PRSM 9.0(2)	

### 使用上のガイドライン

管理インターフェイスのドロップされたパケットのロギングをイネーブルまたはディセーブルにするには、**config mgmt-interface** コマンドを使用します。管理アクセスに関する問題をデバッグする場合に使用することがあります。

### 例

次に、ロギングの現在の状態を変更する例を示します。

```
hostname> config mgmt-interface log-drops
Logging of dropped packets on management interface is disabled.

Would you like to enable it? (y/n) [Y]: Y
Logging of dropped packets on management interface has been enabled.
hostname>
```



## 関連コマンド

コマンド	説明
削除	コア ダンプ、パケット キャプチャ、またはログ ファイルを削除します。

# config ntp

システムの Network Time Protocol (NTP) サーバを設定するには、**config ntp** コマンドを使用します。

## config ntp

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。
- PRSM のコンソールまたは SSH セッション。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
ASA CX Software 9.0(1)	このコマンドが追加されました。
PRSM 9.0(1)	

### 使用上のガイドラ

(注) システムの設定中に **setup** コマンドを使用して NTP を設定することもできます。システム全体の設定ウィザードを経由せずに NTP の設定を変更するには、**config ntp** を使用します。システムの時間帯を設定するには、**config timezone** コマンドを使用します。

ネットワーク上のデバイス間の時刻同期を確認するには NTP サーバを使用します。時刻同期は、システムイベントを評価しやすくしてイベントのタイムスタンプ間の比較を簡単にします。**config ntp** コマンドはホスト名や NTP サーバのアドレスの入力を求めます。優先順位の高いものから順に、カンマで区切って入力してください。

**config ntp** コマンドを使用するたびに、サーバの完全なリストを入力する必要があります。サーバを単独で追加または削除することはできません。

NTP をディセーブルにするには、**config time** コマンドを使用してシステム時刻を設定します。NTP は自動的にディセーブルになります。**config ntp** または **setup** コマンドを使用して、NTP を再度イネーブルにできます。

## 例

次に、システムの NTP サーバを設定する例を示します。既存のサーバはカッコ内に表示されます。変更を行わない場合は Enter キーを押します。変更する場合は、優先順位の高いものから順に NTP サーバの完全なリストを入力します。既存のサーバも必要に応じて再度入力します。

```
hostname> config ntp
Enter the NTP servers separated by commas [ntp.example.com]:
ntp.example.com, ntp2.example.com
hostname> show ntp
      remote           refid      st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
ntp.example.com 10.81.254.131    2 u  15  64    1  58.376 -74.177  0.001
ntp2.example.co .GPS.           1 u  14  64    1  63.335 -79.347  0.001
hostname>
```

次に、NTP をイネーブルにする例を示します。この例では、すでに NTP を設定し、システム時刻を設定することで、ディセーブルにしています。NTP サーバの元リストが保存されるため、サーバ名を再入力する必要はありません。

```
hostname> config ntp
Do you want to enable the NTP service? [N]: y
Enter the NTP servers separated by commas [ntp.example.com, ntp2.example.com]: (press Enter)
ntp.example.com, ntp2.example.com
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>config time</b>	現地の日時を設定します。
<b>config timezone</b>	タイムゾーンを設定します。
<b>show ntp</b>	システムのネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバを表示します。
<b>show time</b>	現在のシステム日付、時刻、および時間帯を表示します。

# config passwd

admin ユーザのパスワードを変更するには、**config passwd** コマンドを使用します。



## 注意

ASA CX を管理するために、PRSM マルチ デバイス モードを使用している場合は、ASA CX で管理ユーザのパスワードを変更しないでください。パスワードを変更すると、PRSM はデバイスと通信できなくなります。PRSM インベントリから親の ASA を削除し、それを追加し直して新しい管理パスワードで PRSM を更新する必要があります。

## config passwd

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

ASA CX では、admin ユーザのデフォルトのパスワードは **Admin123** です。

PRSM マルチ デバイス モードでは、デフォルトのパスワードはありません。VM を初めてインストールして起動した時にパスワードを設定するように求められます。

### コマンド モード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。
- PRSM のコンソールまたは SSH セッション。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
ASA CX Software 9.0(1)	このコマンドが追加されました。
PRSM 9.0(1)	

### 使用上のガイドライン

**config passwd** コマンドは、admin ユーザのパスワードを変更します。また Web インターフェイスを介して admin ユーザのパスワードを変更できます。

適切なパスワードが必要です。パスワードを要件に一致しないパスワードに変更しようとしたら、同じパスワードを2回入力しなかったりすると、再試行を求めるプロンプトが表示されます。パスワードは8文字以上で、1個以上の大文字 (A ~ Z)、小文字 (a ~ z)、数字 (0 ~ 9) を使用する必要があります。

---

例

次に、admin ユーザのパスワードを変更する例を示します。タイプされたパスワードは表示されません。

```
hostname> config passwd

The password must be at least 8 characters long and must contain
at least one uppercase letter (A-Z), at least one lowercase letter
(a-z) and at least one digit (0-9).

Enter password: (type password)
Confirm password: (retype password)
SUCCESS: Password changed for user admin
hostname>
```

次に、最初の試行でパスワードが要件を満たしていないために失敗した例を示します。

```
hostname> config passwd

The password must be at least 8 characters long and must contain
at least one uppercase letter (A-Z), at least one lowercase letter
(a-z) and at least one digit (0-9).

Enter password: (type bad password)
Confirm password: (retype bad password)

The password must be at least 8 characters long and must contain
at least one uppercase letter (A-Z), at least one lowercase letter
(a-z) and at least one digit (0-9).

Press any key to try again [Ctrl+C to quit]:

Enter password: (type good password)
Confirm password: (retype good password)
SUCCESS: Password changed for user admin
hostname>
```

---

関連コマンド

関連するコマンドはありません。

# config reset



## 注意

データベースを出荷時デフォルト値にリセットすると、Web インターフェイスで定義したすべてのポリシーおよびコンフィギュレーション設定と、収集したイベントおよびレポートデータが削除されます。このアクションは取り消せません。どの設定も維持しない場合にのみ、この手順に従ってください。Cisco Prime Security Manager では、この手順を実行する前に、イベントリからすべてのデバイスを削除することを推奨します。

工場出荷時にシステムをリセットするには、**config reset** コマンドを使用します。

## config reset

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。
- PRSM のコンソールまたは SSH セッション。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
ASA CX Software 9.0(1)	このコマンドが追加されました。
PRSM 9.0(1)	

### 使用上のガイドライン

**config reset** 目的は、ポリシーデータベース、イベント、およびレポートデータを消去することです。システムに設定されたポリシーまたはネットワークトラフィックから収集されたイベントやレポートを保存する必要がない場合にのみ使用します。このアクションは取り消せません。

システムを出荷時の初期状態にリセットしても、CLI を介して行われたデバイス設定はリセットされません。たとえば、管理 IP アドレスおよびマスク、ゲートウェイ、DNS 設定、NTP 設定、時刻設定はリセットされません。これらの値は保存され、デバイスは引き続きネットワークにアクセスできます。これらの設定も変更する場合は、**setup** コマンドおよび他の **config** コマンドを使用します。

## 例

次に、システムを出荷時の初期状態にリセットする例を示します。警告は、リセットするシステムによって少し異なります。

```
hostname> config reset
WARNING: You are about to erase all policy and device configurations.
Before proceeding, remove all devices from the inventory.
Otherwise, you must unmanage each managed ASA CX from its home page.
The database will be reset to factory defaults.
System setup configuration will be preserved.
You cannot undo this action.
Are you sure you want to proceed? [y/n]: y
Stopping services...
Removing settings...
Initializing database...
Generating certificates...
Starting services...
The system has been successfully reset to factory defaults.

hostname>
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>system revert</b>	インストール済みパッケージを復元します。
<b>system upgrade</b>	アップグレードパッケージをインストールします。

# config restore

データベース バックアップを復元または再確立するには、**config restore** コマンドを使用します。

## config restore URL

### 構文の説明

<i>URL</i>	復元するデータベース バックアップの zip ファイルの URL です。パスとファイル名を含む次のタイプの URL を使用できます。  • ftp://
------------	--

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。
- PRSM のコンソールまたは SSH セッション。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
ASA CX Software 9.0(1)	このコマンドが追加されました。
PRSM 9.0(1)	

### 使用上のガイドライン

設定データベースのバックアップを復元するには、**config restore** コマンドを使用します。復元には、イベントまたはレポートデータは含まれません。バックアップを作成するには、**config backup** コマンドを使用します。

URL にはバックアップ ファイルのファイル名およびフルパスを含めます。任意でユーザ名とパスワードを、**ftp://ユーザ名[:パスワード]@サーバ名/パス/ファイル名**の形式で含めることができます。

通常、データベースのバックアップを復元できるのは、システムで現在稼働しているものと同じソフトウェアのバージョンからバックアップされた場合のみです。ただし、以前のバックアップからのデータベースが新しいソフトウェアのバージョンと互換性がある場合もあります。

PRSM マルチデバイスモードサーバにバックアップを復元したときに、復元されたデータベースに定義されている管理対象デバイスのポリシーと設定が、そのデバイスで現在稼働しているポリ



シーおよび設定と異なっていることがあります。つまり、バックアップが行われた時刻と、現在の時刻との間で、デバイスに変更が適用された可能性があります。この場合、バージョン mismatch アラートが PRSM に表示されます。これは復元された PRSM サーバに最初にログインしたときに表示されます。バージョン mismatch アラートが表示されたデバイスごとに、ASA CX の管理対象モードのホームページにログインして、再同期リンクをクリックすることを推奨します。現在稼働中の設定を保存する場合は、PRSM インベントリから親の ASA を削除して再検出してください。

PRSM マルチデバイスモードでは、VMware を使用して仮想コンピュータのスナップショットを作成し、データベースバックアップを復元するのではなく、これらのスナップショットを復元することもできます。様々な潜在的な問題から保護するために、両方の技術を使用できます。



#### 注意

復元するバックアップファイルですべてのパスワードがクリアされている場合は、警告が表示され、続行するかどうか尋ねられます。すべてのパスワードフィールドを手動で再構築する必要があるため、パスワードがクリアされたバックアップの復元は中断する必要があります。たとえば、すべてのデバイスを PRSM マルチデバイスモードインベントリから削除してから追加し、パスワードをリセットする必要があります。すべてのモードで、ローカルユーザ (admin ユーザ以外)、AD/LDAP ディレクトリ、AD エージェント、シグニチャアップデータ HTTP プロキシユーザ名のすべてのパスワードを定義する必要があります。パスワードがクリアされたデータベースの回復後は、admin ユーザとしてログインする必要があります。パスワードがクリアされたデータベースの回復は、システムを再構築するための他のオプションがない場合にのみ行います。

#### 例

次に、データベースのバックアップを復元する例を示します。

```
hostname> config restore ftp://10.69.43.239/backups/
prsm_prsm-vm_1.0.0_04_02_2012_16_25_30.pkg
Downloading: ftp://10.69.43.239/backups/prsm_prsm-vm_1.0.0_04_02_2012_16_25_30.pkg
You need to authenticate with the server to upload/download file
Username: ftpusername
Password: (typing not displayed)
Starting the database restore process....
Please note that existing eventing and reporting data will not be restored.
NOTE: The restore process removes the present configuration replacing it with
the backed up configuration.
Do you want to proceed with restore?(y/n)?[n]: y
Stopping Cisco Services for restoring Database

The database has been restored to a backup version.
NOTE: Log into PRSM and check the inventory for Version Mismatch alerts.
These alerts indicate that a managed ASA CX is running a different
configuration than the one defined in the PRSM database. You must
correct the mismatch. Either log into each ASA CX home page and
click the resynchronize link to revert to the old configuration, or
remove the device from the inventory and rediscover it to preserve
the current configuration.

Restarting Cisco Services after restoring database
.....
hostname>
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>config backup</b>	データベースをバックアップします。
<b>config reset</b>	データベースを出荷時デフォルト値にリセットします。

# config time

NTP を使用せずに現地の日時を設定するには、**config time** コマンドを使用します。

## config time

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。
- PRSM のコンソールまたは SSH セッション。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
ASA CX Software 9.0(1)	このコマンドが追加されました。
PRSM 9.0(1)	

### 使用上のガイドラ

(注) システム時刻の設定でネットワーク タイムプロトコル (NTP) を使用しない場合にのみ、**config time** コマンドを使用します。**config time** コマンドを使用すると、NTP がディセーブルになり、システムは設定した現地時間の使用を開始します。

**config time** コマンドでは、MM/DD/YYYY HH:MM[:SS] 形式で日付および時間を指定します。

- MM は 01 ～ 12 の月です。
- DD は日です。
- YYYY は 4 桁の年です。
- HH は 24 時間表記の時刻です。
- MM は分です。
- SS は任意の秒です。

時間帯を設定するには、**config timezone** コマンドを使用します。



#### ヒント

NTP サーバを設定するには、**config ntp** コマンドを使用します。NTP を使用すると、ネットワーク上のデバイス間の時刻同期を確認できます。

#### 例

次に、ローカル システムの日時を変更する例を示します。この例では NTP はアクティブになっていたため、日時の設定によってディセーブルになりました。

```
hostname> config time
Enter the date and time [01/10/2012 23:51:1]: 01/10/2012 23:53
Tue Jan 10 23:53:00 UTC 2012
23:53:00
NTP service has been disabled.
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>config ntp</b>	ネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバを設定して時刻を設定します。
<b>config timezone</b>	タイムゾーンを設定します。
<b>show ntp</b>	システムのネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバを表示します。
<b>show time</b>	現在のシステム日付、時刻、および時間帯を表示します。

# config timezone

システムのタイムゾーンを設定するには、**config timezone** コマンドを使用します。

## config timezone

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの時間帯は UTC です。

### コマンド モード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。
- PRSM のコンソールまたは SSH セッション。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
ASA CX Software 9.0(1)	このコマンドが追加されました。
PRSM 9.0(1)	

### 使用上のガイドライン

タイムゾーンを設定する際は、ゾーン内の都市または地域が表示されます。目的のゾーンの都市または地域の番号を入力してください。ゾーンの名前が一覧表示される場合もあります。[角カッコ]で表示されている地域は、ゾーンではありません。これを選択すると、その地域内に含まれるゾーンが一覧表示されます。たとえば、[America]を選択すると、北南米の都市や地域が一覧表示されます。

### 例

次に、タイムゾーンを変更する例を示します。

```
hostname> config timezone

The current time zone is:
UTC

  1. [Africa]          2. [America]          3. [Antarctica]      4. [Arctic]
  5. [Asia]            6. [Atlantic]        7. [Australia]      8. [Brazil]
  9. [Canada]         10. [Chile]           11. [Etc]            12. [Europe]
 13. [Indian]         14. [Mexico]          15. [Mideast]        16. [Pacific]
 17. [US]             18. CET               19. CST6CDT         20. Cuba
... (Some zones removed for publishing purposes) ...
```

## config timezone

```

Please enter your choice [Enter 'b' to go back]: 17

  1. Alaska           2. Aleutian           3. Arizona           4. Central
  5. East-Indiana    6. Eastern           7. Hawaii            8. Indiana-Starke
  9. Michigan        10. Mountain         11. Pacific          12. Samoa

Please enter your choice [Enter 'b' to go back]: 11

You have chosen the Pacific time zone.

Changing the time zone requires a process manager restart.
Do you want to restart the process manager now? [Y]: Y

The time zone has been changed to:
PDT

Restarting process manager....

hostname>

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>config ntp</b>	ネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバを設定して時刻を設定します。
<b>config time</b>	現地の日時を設定します。
<b>show ntp</b>	システムのネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバを表示します。
<b>show time</b>	現在のシステム日付、時刻、および時間帯を表示します。

# delete

不要なパケットキャプチャ、コア ダンプまたはログ ファイルを削除するには、**delete** コマンドを使用します。

## delete

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。
- PRSM のコンソールまたは SSH セッション。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
ASA CX Software 9.0(1) PRSM 9.0(1)	このコマンドが追加されました。
ASA CX Software 9.0(2) PRSM 9.0(2)	ログ ファイルを削除する機能が追加されました。

### 使用上のガイドライン

不要になったファイルを削除するには、**delete** コマンドを使用します。パケットキャプチャ、コア ダンプとシステム ログを削除できます。ファイルを削除する前に、**support diagnostic** コマンドを使用して FTP サーバにアップロードできます。

ログ ファイルの削除を選択する場合は、アクティブ ログ ファイルを削除しないようにする必要があります。ログファイルのアクティブか非アクティブかの違いは、ファイル名から判断できません。拡張が .log の場合、ファイルはアクティブです。log.4 のように、最後に数字がつく場合は、ログはアクティブではありません。アクティブなログ ファイルを削除する場合は、まず **services stop** コマンドを使用してサービスを停止します。ログを削除した後は **services start** を使用してサービスを再起動します。

コマンドプロンプトに従い、適切なファイルを見つけて削除します。

## 例

次に、パケットキャプチャファイルを削除する例を示します。類似した名前の複数のファイルを選択するには、名前の一部を入力します。一致するファイル名が確認のためにエコーバックされます。ファイル名は、大文字と小文字が区別されます。たとえば、「allow」は「Allow」に一致しません。

```

asacx> delete

===Remove Files===
 1. Cores
 2. Packet Captures
 3. Logs

Please enter your choice ([Ctrl+C] to exit): 2

=====
Directory: /var/local
-----files-----
2012-03-20 18:37:28 | 524134 | Allow All.pcap
2012-03-20 18:52:11 | 1922 | aspdrop.pcap

Type the partial name of the file to delete ([<] to cancel)
> asp
aspdrop.pcap
Are you sure you want to delete these files? (y/n) [Y]: y
Deleted: /var/local/aspdrop.pcap

Type the partial name of the file to delete ([<] to cancel)
> <

===Remove Files===
 1. Cores
 2. Packet Captures

Please enter your choice ([Ctrl+C] to exit): (Ctrl+C)

asacx>

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>support diagnostic</b>	システムログ、コアダンプ、パケットキャプチャの診断ファイルを作成してアップロードします。



# exit

コンソールセッションからログアウトするには、**exit** コマンドを使用します。

## exit

---

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

---

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

### コマンド モード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。
- PRSM のコンソールまたは SSH セッション。

---

### コマンド履歴

リリース	変更内容
ASA CX Software 9.0(1)	このコマンドが追加されました。
PRSM 9.0(1)	

---

### 使用上のガイドライン

**exit** コマンドは、必ずコンソールセッションからログアウトします。終了する設定モードはありません。

---

### 例

次に、コンソールセッションでログアウトする例を示します。

```
hostname> exit
Cisco Prime Security Manager 9.0.2

You can access the Web UI from your browser using the following URL(s):
https://10.100.10.10/
http://[2001:DB8::0DB8:800:200C:417A]/

hostname login:
```

---

### 関連コマンド

関連するコマンドはありません。

# format

システムのハードドライブと埋め込まれた USB (eUSB) フラッシュ ドライブをフォーマットまたは再フォーマットするには、**format** コマンドを使用します。

## format

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
ASA CX Software 9.0(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

デバイスのハードドライブと eUSB ドライブを再フォーマットするには、**format** コマンドを使用します。このプロセスは、完了までに数時間かかる場合があります。このコマンドは、ブートイメージのデバイスでのみ使用できます。



#### 注意

このコマンドは、ドライブからすべてのデータを消去します。取り消すことはできません。続行するかどうか尋ねられます。

### 例

次は **format** コマンドの出力例です。

```
hostname>format
WARNING: You are about to erase all policy configurations and data.
You cannot undo this action.
This command will take HOURS to complete.
Are you sure you want to proceed? [y/n]:y
Logical volume "data" successfully removed
Logical volume "var" successfully removed
Logical volume "packages" successfully removed
Logical volume "db" successfully removed
Logical volume "log" successfully removed
Logical volume "local" successfully removed
```

```

Logical volume "diag_cores" successfully removed
0 logical volume(s) in volume group "vg" now active
Volume group "vg" successfully removed
mdadm: stopped /dev/md0

Command (m for help): Partition number (1-4):
Command (m for help): The partition table has been altered!

Calling ioctl() to re-read partition table.
Syncing disks.

Command (m for help): Partition number (1-4):
Command (m for help): The partition table has been altered!

Calling ioctl() to re-read partition table.
Syncing disks.

Command (m for help): Partition number (1-4):
Command (m for help): The partition table has been altered!

Calling ioctl() to re-read partition table.
Syncing disks.

Command (m for help): Selected partition 4

Command (m for help): The partition table has been altered!

Calling ioctl() to re-read partition table.
Syncing disks.
Formatting the hard drives and eUSB
Formatting first hard drive
572326+0 records in
572325+0 records out
600127266816 bytes (600 GB) copied, 4458.26 seconds, 135 MB/s
Formatting second hard drive
572326+0 records in
572325+0 records out
600127266816 bytes (600 GB) copied, 4470.02 seconds, 134 MB/s
Formatting eUSB
7681+0 records in
7680+0 records out
8053063680 bytes (8.1 GB) copied, 309.583 seconds, 26.0 MB/s
Format Successful

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>partition</b>	システムのハードドライブと eUSB フラッシュドライブのパーティションの（再）設定を行います。

# help

使用可能なコマンドまたはコマンド構文の詳細の一覧を表示するには、**help** コマンドを使用します。

{**help**| ?} [*command\_name*]

## 構文の説明

*command\_name* 構文のヘルプが必要なコマンドの名前です。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

## コマンド モード

このコマンドは次のコンテキストで使用できます。

- ASA CX のコンソールまたは SSH セッション。
- PRSM のコンソールまたは SSH セッション。

## コマンド履歴

リリース	変更内容
ASA CX Software 9.0(1)	このコマンドが追加されました。
PRSM 9.0(1)	

**使用上のガイドライン** 次のコマンドを入力すると、コマンドラインからヘルプ情報を利用できます。

- **help** または **?** : すべてのコマンドのリストを表示します。
- **help** コマンド名 : コマンドの構文を表示します。
- コマンド名 **?** : コマンドのオプションを表示します (例: **show ?**) 。
- *string?* : 文字列に一致したコマンドまたはキーワードを表示します (例: **n?**) 。

## 例

次の例では、使用可能なコマンドのリストを表示する方法を示します。コマンド構文（または説明）は右側に表示されます。**config** コマンドの構文の説明は、追加オプションが存在することを示しています。**config ?** を入力するとそれらを表示できます。コマンドの一覧は、使用しているシステムやソフトウェア リリースによって異なります。

```
hostname> help
  show          => Display system information. Enter show ? for options
  config        => Configure the system. Enter config ? for options
  system        => Control system operation
  setup         => System Setup Wizard
  support       => Support information for TAC
  delete        => Delete files
  ping          => Ping a host to check reachability
  nslookup      => Look up an IP address or host name with the DNS servers
  traceroute    => Trace the route to a remote host
  services      => Control services on the box
  exit          => Exit the session
  help          => Get help on command syntax

hostname> config ?
  ntp           => Configure NTP servers
  time          => Configure date and time
  timezone      => Configure time zone
  passwd        => Change the admin user password
  reset         => Reset the database to factory defaults
  backup        => Backup of the current DB snapshot is taken
  restore       => Current DB is replaced by prev snapshot of backed up DB

hostname>
```

## 関連コマンド

関連するコマンドはありません。

